

授業科目 ユニバーサルデザイン論演習

Seminar-workshop : Universal Design

担当 本間 康夫

高齢者・障害者を含めた全ての生活者を対象に、暮らしやすい生活環境の構築に関わる「モノ」や「環境」の抱える様々な課題について、ユニバーサルデザイン（以下 UD）の視点からアプローチし、問題解決のための実践的な UD 方法論の研究を行うと共に UD 評価方法の構築を試みる。

進め方として、

- ① 住空間（スペース・デザイン）に関わる課題、
- ② 生活用具（プロダクト・デザイン）に関わる課題、

のいずれかをベースに、企業や地域団体、自治体などと連携の上、具体的なテーマを設定し、製品化、あるいは地域社会での実践を前提にデザイン提案を行い、そのプロセスや結果の検証・評価を試みる。

授業科目 デザイン・システム論演習

Seminar-workshop : Design System

担当 森野 晶人

言語の生成過程や、サインの形成過程から、それら視覚伝達情報の文化として定着するシステムの構造を抽出し、逆説的に視覚情報伝達メディアの創作を目指すシステムを仮構築し、その試行と仮説検証のための実験を行う。その一端として、視覚伝達情報に関わる過去のデザイン所産を空間次元に時系列を加えた視点から分析し、新たな象徴形態（記号の素因）を抽出するための、視覚伝達情報集積手法（アナログ情報のデジタル図式化システム）を研究・創出する。

例えばピクトグラムには普遍的な象徴記号もあれば、時代と共に変わるべき意味、形象を内包しているものもある。後者を改編するため、国際間の理解と協同を得てその提案を実現させるためには、感性に頼る模索には限界がある。そのため新たな象徴形態を抽出する合目的手法として、国際的な視点からも活用できる実用的システム造りが不可欠であり、研究対象とする。